

— 最終講義 —

## 心臓外科との40年

— よき師, よき友, よき場に恵まれて

川崎医科大学外科学 (胸部心臓血管) 教授 藤原 巍

昭和49年の秋, 新設された胸部心臓血管外科にまいりまして今年で25年になり, この3月でこの大学を去ることになりました。25年は経ってみれば, 短く, あっという間に過ぎてしまいました。

昭和35年, 外科を志望して岡山大学第二外科の大学院に進学しましたが, 心臓外科に興味があって外科に入った訳ではありません。インターン時代, 外科医局のチームワークと和やかな雰囲気引かれる極めて単純な動機によるものであります。入局後, 砂田輝武教授から心臓グループの動物実験を手伝うようにいわれたのが私の心臓外科の始まりとなったのであります。当時, 生涯心臓外科にかかわるとは夢にも思っておりませんでした。外科医となってからも進路を決める分岐点は何度かありました。誰でも先のことは解らないものです。決断すれば自から興味は湧き, 道は開けてくるものです。

### 1. 学位論文について

ある日, 砂田教授から大学院の研究テーマに「肺高血圧」をやるようにいわれました。私たちの習った教科書には肺高血圧なんて項目はありません。なにをすればいいのか皆目見当がつかなかったのです。当時, 教授から与えられる研究テーマは, 大体こんな漠然としたものでした。何をやるかは自分で決めなければならなかったのです。しばらく試行錯誤が続きました。当時は肺高血圧をもったVSDでは手術死亡率が

非常に高かったのです。そこで, 臨床例で手術適応の指標を探るため, 肺の血流動態と血管病変を調べようと思ったのであります。心臓手術を受ける患者の術前, 右心カテーテル検査の時, 肺動脈の楔入部の造影をかたっぱしから行い, その分岐像を解析, 同時に肺血流量, 短絡率, 肺血管抵抗を計算, 手術中に肺のバイオプシーから, 肺動脈の組織検査を行いました。これをまとめたものが私の学位論文となったのであります<sup>1)</sup>。頭でいくら考えても進まない, 先ず, やってみる, そのうち道は開けてくるものです。

### 2. 川崎医大における25年間の心臓外科

心臓外科は内科の協力がなければ成り立ちません。本学循環器内科を始め, 県内外の各病院から多くの患者の紹介を受け, 川崎医大の心臓外科手術は順調な発展をとげてきました。

昨年6月までの25年間に川崎医科大学で行った心臓手術数を **Figure 1** に示しました。人工

先天性心疾患	262例
心臓弁膜症	424
虚血性心疾患	469
その他	34
ペースメーカー手術	465
計	1654例
人工心臓を使用した 体外循環下手術	1121例

**Fig. 1.** 川崎医科大学25年間の心臓手術







## 文 献

- 1) 藤原 巍：楔入肺動脈造影像よりみた外科的心疾患における末梢肺血管床の研究. 日本胸部外科学会誌 12：44-66, 1966
- 2) 藤原 巍 他：虚血性心疾患に対する冠動脈血行再建術. 川崎医会誌 22：135-142, 1996
- 3) Fujiwara T et al：Coronary ostial endarterectomy in Takayasu's aortitis.：Confirmation of patency nine years postsurgically. Jpn Circulation J 56：556-559, 1992
- 4) 藤原 巍 他：心房細動を有する僧帽弁狭窄症の術後の脈拍数と弁機能に関する研究. 呼吸と循環 32：493-497, 1984
- 5) 藤原 巍 他：A-C バイパス術後グラフトおよび冠動脈の流速波形の解析. 日本心臓血管外科学会誌 15：283-284, 1986
- 6) 藤原 巍 他：心電図同期血流流速波形解析装置の開発と A-C バイパス術後グラフト流量解析への応用－側副血行路の影響について－. 日本心臓血管外科学会誌 16：221-222, 1986
- 7) 藤原 巍 他：A-C バイパス術後グラフト流量および流速波形に及ぼす IABP の効果. 胸部外科 39：182-186, 1986
- 8) 藤原 巍 他：A-C バイパス術後グラフト血流に及ぼすニトログリセリン持続静脈内投与の効果. 呼吸と循環 37：885-890, 1989
- 9) 山根尚慶：冠動脈バイパス術後のグラフト血流速波形の解析並びにグラフト流量増加の予備能力に関する研究. 日本胸部外科学会誌 36：883-890, 1988
- 10) 吉田 浩：A-C バイパス術後グラフト血流に及ぼす心臓パーシングの影響. 日本胸部外科学会誌 39：315-321, 1991
- 11) Kajiya F, Fujiwara T et al：Analysis of flow characteristics in poststenotic regions of the human coronary artery during bypass graft surgery. Circulation 76：1092-1100, 1987
- 12) 藤原 巍 他：超音波血流計による虚血性心疾患の冠動脈血流の術中計測. 日本胸部外科学会誌 36：2431-2436, 1988
- 13) Fujiwara T et al：Comparison of blood-flow velocity waveforms in different coronary artery bypass grafts. Circulation 78：1210-1217, 1988
- 14) Fujiwara T et al：Coronary flow characteristics of left coronary artery in aortic regurgitation before and after aortic valve replacement. Ann Thorac Surg 46：79-84, 1988
- 15) Fujiwara T et al：Coronary flow velocity waveforms in aortic stenosis and the effects of valve replacement. Ann Thorac Surg 48：518-522, 1989

## 略 歴



- 昭和10年 1月11日 岡山市に生まれる  
 昭和28年 3月 岡山県立岡山操山高等学校卒業  
 昭和28年 4月 岡山大学理学部二類入学  
 昭和30年 4月 岡山大学医学部入学  
 昭和34年 3月 岡山大学医学部卒業  
 昭和34年 4月 国立岡山病院にてインターン  
 昭和35年 4月 岡山大学大学院医学研究科入学  
 (外科学専攻)  
 昭和35年 7月 医籍登録  
 昭和39年 3月 岡山大学大学院医学研究科修了  
 昭和39年 4月 岡山大学医学部附属病院第2外科(砂田外科) 副手  
 昭和43年 9月 岡山大学医学部助手, 講師併任  
 昭和48年 4月 徳島県立中央病院外科医長  
 昭和49年10月 川崎医科大学助教授(胸部心臓血管外科), 外科医長  
 昭和60年10月 川崎医科大学教授(心臓外科), 外科部長  
 平成7年 5月 川崎医科大学教授(胸部心臓血管外科), 外科主任教授  
 平成9年 4月~ 川崎医科大学附属病院副院長  
 平成11年 3月  
 平成12年 3月 川崎医科大学教授定年退任  
 平成12年 4月 川崎医科大学名誉教授, 川崎医療福祉大学教授  
 現在に至る

## 所属学会

- 日本外科学会評議員
- 日本胸部外科学会評議員
- 日本循環器学会評議員
- 日本脈管学会評議員
- 日本心臓血管外科学会理事, 評議員
- 日本血管外科学会評議員
- 日本冠動脈外科学会評議員
- 日本胸部外科学会関西地方会理事

## 学会認定医

- 日本外科学会認定医, 指導医
- 日本胸部外科学会認定医, 指導医
- 日本循環器病学会専門医

## 開催学会

- 日本循環器学会中国四国地方会第58回総会会長  
岡山プラザホテル 平成3年6月15日
- 第28回日本血管外科学会中国四国地方会会長  
ホテルグランピア岡山 平成9年7月26日
- 第18回血管無侵襲診断法研究会会長  
徳島県郷土文化会館 平成10年5月28日~29日
- 日本胸部外科学会関西地方会第27回学術セミナー会長  
岡山国際交流センター 平成12年1月28日~29日